温州ミカン生産栽培の経営に関する調査
第2報 経営の実態と問題点
末次信行・岩永秀人・野方俊秀（佐賀県農業試験場）

2. The Present Situation and Problems of Farm Economy

前報では栽培技術上の問題点について報告したが、本報では経営上の問題点について報告する。調査対象農家ごとの収益、収量（出荷量）、単価、生産費および収益の差引きなどを作業の内容別、時期別労働時間の実態について報告する。

1. 調査方法

松浦を含む南部農家を通じて出荷された果実の出荷量、出荷時期および栽培地、等級別収穫を把握するとともに、諸生産費についても松浦南部農家の資料に基づいて算出した。また、作業別労働時間については、各ハウスごとに作業日誌を配布して、日ごとの作業時間および作業内容についての記録を依頼し、それに基づいて算出した収益の損益分岐点について検討した。

2. 調査結果

1）10a当たりの平均出荷量は4.7 t、単価は560円/kg。10a当たりの平均年収益は、2630千円であり、温州ミカン加温ハウスの果実出荷量はやや少なく、全体に出荷時期が遅いため単価もやや低かった。10a当たり収益が高い農家で3608千円、少ない農家で238千円となり、10a当たりの農家間最大差は、1570千円に達した。

2）10a当たりの生産費は、平均で2308千円であったが、農家間の最大差は629千円となり、これは栽培費における最大差の約半分以下であった。栽培費の割には、施設費と施設設備費の割合が高く、それそれぞれ46.1%、23.7%を占め、施設設備費の農家間差異は最大で132千円と比較的少なかったが、燃料費は472千円とやや大きかった。

3）収益から生産費を差し引いた純益は平均で322千円と少なく、調査農家1/3の農家は赤字となった。なお、差引き額の農家間差異は10a当たり173千円に達し、農家間の経営状況には大いなる差異が認められなかった。

4）出荷された果実の等級別割合は、農家間の栽培差がやや大きくなり、その差は果肉色においても、品質より収量を求める農家が多い傾向がみられた。

5）10a当たり平均労働時間は、約364時間となり当時栽培を大きく上回ったが、園により作業内容に差がみられた。

6）作業内容別にみると、施設の設置、維持（温度制御のためのビニール巻き上げを含む）と結実確保のための芽つま、花弁落とし等に要する時間が多く、各自28%、22.1%を占め、次いで収穫および中殺、除草に要する時間が多かった。

7）時期別にみると労働時間の集中する3つのピークが認められた。すなわち、開明前31日前のハウスビニールの被覆前後には施設の設置、ビニール被覆、各種附属施設の設置を中心に施肥および中殺、除草、芽定、誘引等の作業が集中した。第2のピークは開明から開明後30日までごろごろを中心に認められ、結実促進のための芽つま、花弁落としが主であった。第3のピークは開明後180日目以降の収穫調整作業を主としたものであった。

8）10a当たり364時間の作業を要したとして収支の分岐点をみると農家の販売手取り額が500円ならば1時間当たりの勞資1000円とした場合、4.1以上の出荷が必要であり、資本利子やもある程度の利潤を見込めば最低6 tの出荷量が必要と思われる。

9）現状における温州ミカン栽培時の収益は、本調査では、生産費の増大によって改善される面が大きいとの結果となり高収益の確保と早期出荷の実現が課題となる。しかし、今後は品質本位に移行すると考えられ、高品質果実安定生産、コストの低減なども求められよう。

第1表 10a当たり収益および生産費の概要

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>単価</th>
<th>収益</th>
<th>施設設備費</th>
<th>ビニール代</th>
<th>施設費</th>
<th>電気費</th>
<th>生産費</th>
<th>費用合計</th>
<th>差引き</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>最大</td>
<td>6258.2千</td>
<td>649万</td>
<td>360.8万</td>
<td>59.92万</td>
<td>25.6万</td>
<td>120.9万</td>
<td>10.5万</td>
<td>37.7万</td>
<td>250.5万</td>
</tr>
<tr>
<td>最小</td>
<td>3913.4</td>
<td>478</td>
<td>203.8</td>
<td>46.7</td>
<td>16.9</td>
<td>73.7</td>
<td>6.4</td>
<td>37.7</td>
<td>187.6</td>
</tr>
<tr>
<td>平均</td>
<td>4700.0</td>
<td>560</td>
<td>263.0</td>
<td>53.8</td>
<td>23.7</td>
<td>106.4</td>
<td>9.2</td>
<td>37.7</td>
<td>230.8</td>
</tr>
</tbody>
</table>

同上割引 - - - 23.3% 10.3% 46.1% 4.0% 16.3% 100% -

注) *栽培費は肥料料5.2万円、農薬料3.2万円、蒸発燃料11.9万円、農業3.5万円、作業費2.0万円、雇用労働10.0万円として全農家一律に算出した。
**費用合計には自家労働を含まね。

第2表 作業内容別平均所要労働時間（8週平均）

<table>
<thead>
<tr>
<th>作業内容别</th>
<th>洪 水</th>
<th>除草・除春</th>
<th>施 肥</th>
<th>播 定</th>
<th>枝摘・誘引</th>
<th>業水</th>
<th>館面散布</th>
<th>果 散</th>
<th>果実管理</th>
<th>収穫</th>
<th>撮果</th>
<th>収穫</th>
<th>施設の設備維持</th>
<th>合 計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>土壌管理</td>
<td>9.14hr</td>
<td>27.27hr</td>
<td>8.08hr</td>
<td>13.29hr</td>
<td>19.23hr</td>
<td>2.28hr</td>
<td>2.30hr</td>
<td>11.43hr</td>
<td>80.51hr</td>
<td>27.24hr</td>
<td>59.04hr</td>
<td>102.13hr</td>
<td>363.39hr</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>同上割引</td>
<td>2.5%</td>
<td>7.6%</td>
<td>2.2%</td>
<td>3.7%</td>
<td>5.3%</td>
<td>0.7%</td>
<td>0.7%</td>
<td>3.2%</td>
<td>22.1%</td>
<td>7.5%</td>
<td>16.3%</td>
<td>28.1%</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>